



注意事項：

1. 答案依序書寫於答案卷上，不必抄題。
2. 答案卷不可書寫任何可辨別個人姓名或特殊標記，違者不予計算。
3. 請於試題紙上填寫准考證號碼，繳卷時「試題」、「答案卷」一併繳回。

I. 單語：下線部分の読み方（1～10）、外来語（11～15）を書きなさい。15%

1. その知らせに彼は大変なショックを受け、顔が真っ青になった。
2. その大会社は二つの小さな会社を合併した。
3. 扶養家族の数が変わってくれば、その分、控除額が増えた。
4. 日本では乳幼児、青年期、壮年期の死亡率の改善が著しく、平均寿命は大幅に延びた。
5. 男女平等は、現代社会での基本的な考え方の一つである。
6. 高度経済成長には人手不足を現出させた。
7. 規定の限度内に削減されてしまう。
8. 円の為替相場の動きに注意する。
9. その法律は文字通りに実施された。
10. 住宅ローン、老後の蓄えなどのために、補助収入を得ようと働きに出るのが一般的傾向である。
11. この書類は\_\_\_\_\_ (original) が1部あれば十分だ。コピーをとることはない。
12. \_\_\_\_\_ (technology) とは、科学技術を利用する方法論の体系をいう。
13. 台湾との\_\_\_\_\_ (partnership) を強める。
14. \_\_\_\_\_ (globalization) は、企業活動が地球的規模で行われるようになった。
15. 昨日\_\_\_\_\_ (supermarket) へ買い物に行った。

II. 用語解釈：下線の部分を適切な日本語で解釈しなさい。20%

1. 今の世の中を見ると、昔はだれもが竹の子生活をしていたのが、うそのようだ。
2. 一万円札を千円札にくずす。
3. 仕事のあとの一杯はたまらない。
4. 断りなしに欠勤した。
5. 一刻たりとも油断ができない。
6. せっかくの日曜日なのに、客に來られてつぶれてしまった。
7. 会議で議題が通るように、前もって根回しする。
8. 隣の部屋から変な音がした。
9. 精神一到何事ならざらん。(Where there's a will, there's a way.)
10. 人はパンのみにて生きるにあらず。(Man shall not live by bread alone.)

III. 擬似的助詞：下の枠から適当な言葉を選んで、\_\_\_\_\_に書き込みなさい。10%

1. この計画を実行に移す\_\_\_\_\_、ぜひ周囲の人の協力を求めなければならない。
2. 家を出る\_\_\_\_\_母に呼びとめられ、いろいろ用事を頼まれた。
3. スケジュールが決まり\_\_\_\_\_、すぐ知らせてください。
4. 物価の上昇\_\_\_\_\_、リサイクル運動への関心が高まってきた。
5. 就職のご報告\_\_\_\_\_、先生のお宅に新年の挨拶に行った。

< 共 4 頁 >

背面有試題

P. 1

〈科目：日文〉

6. 客が増えるか増えないかは、営業の努力\_\_\_\_\_決まる。
7. この手紙は料金不足\_\_\_\_\_、返送されました。
8. 山田さんとは、5年前に一度会った\_\_\_\_\_、それ以来一度も会っていない。
9. 結婚するかどうかかわからないが、もしする\_\_\_\_\_30歳になる前がいい。
10. 大学をやめる\_\_\_\_\_、学歴に頼らないで生きていける力を自分で身につけなければならない。

以上	かたがた	きり	次第	としたら	ところを
にあたり	にしたがい	につき	によって		

IV. 翻訳：次の文を完成しなさい。10%

1. 飲んだら乗るな。\_\_\_\_\_飲むな。(喝酒不開車, 開車不喝酒。)
2. 薬を飲んだり\_\_\_\_\_するのはいけません。(不可以一下子吃藥一下子不吃。)
3. \_\_\_\_\_3人も子供がある。(遑論是單身, 已有三個孩子了。)
4. 所変われば\_\_\_\_\_変わる。(十里不同風, 百里不同俗。)
5. 机上の空論\_\_\_\_\_。(流於空談。)
6. 案ずるより\_\_\_\_\_やすし。(事情没有想像中那麼難。)
7. 当たらずと\_\_\_\_\_遠からず。(不中亦不遠矣。)
8. この地方は夏には雨に\_\_\_\_\_いる。(此地的夏天受惠於下雨。)
9. 私は自分の経験を\_\_\_\_\_こう言っているんだよ。(我根據本身的經驗才這麼說喔。)
10. 事故に\_\_\_\_\_電車の遅れは15分程度ということだった。(因車禍的電車誤點, 聽說約十五分鐘左右。)

V. 文法訂正：1文に1か所の間違いを出して、それを正しいものになおしなさい。10%

例：壁に絵が掛かってあります。(答え) 掛かって → 掛けて

1. よく寝るように、部屋を暗くします。
2. 後輩は先輩に先生の住所を調べさせました。
3. 手が千切れるような冷たいです。
4. 私は去年日本に来たばかり、まだ敬語が上手に使えません。
5. ゆうべはずいぶん遅くまでに友達と話し込んで、帰りは遅くなりました。
6. これまでの日本語は、改変されるべきなものだと考えられた。
7. 言うのは簡単が、実行に移すのは大変だ。
8. 明日何が起こるかどうかだれにもわかりません。
9. 小学生だったとき、私は作文が好きほうだったが、あまり上手ではなかった。
10. その女の人は立って、私の母を座ってくれました。

<科目: 日 文 >

VI. Close : 下の枠から適当な言葉を選んで、\_\_\_の所に書き込みなさい。15%

宇宙船地球号という考え方が、今 ① 必要とされているときはないであろう。環境問題も、エネルギー問題も、食糧と人口の問題も、地球が宇宙に孤立して浮かぶ小さな星であること ② 起因している。③、近代科学の成立以前には、地球は小さな星では ④ なかった。地球を宇宙船に ⑤ という発想は、科学の産物以外の何物でもないが、その科学が母 ⑥ 大地をちっぽけな宇宙船に変えてしまい、その船に乗っている生命を窮地に ⑦ のである。

科学はあまりにたくさんの発見をもたらした ⑧、我々は ⑨、科学は何でも明らかにして ⑩ と思いがちであるが、⑪ そうではない。五十年後、百年後、千年後の地球がどうなっているか ⑫、科学は予言することができない。それは天気予報が ⑬ あてにならず、正確な地震予知もできないという事実から ⑭ 推測できるであろう。宇宙空間から見れば地球は一点の星にすぎないが、人間的スケールから見ると、地球は巨大な複雑系なのである。⑮ 科学は、予測という点においては、単純なものを得意とし、複雑なものは苦手なのである。

でも	に	を	ほど	なる	ため	つい
そして	実際は	決して	追いやっている	必ずしも		
しかしながら	くれる	見立てる				

VII. 文章のまとめ : 次の文章を読んで、200 語程度で要約しなさい。20%

0歳から3歳までの子育てが最も重要だ、と私は考えている。この期間、子供たちに全身全霊で愛を降り注がなければならない。ところが、現在の日本では、それができない仕組みになっている。働く母親には子供を産むことと、子育てすることが求められている。その結果、十分な子育ても、十分な仕事もできない状況がうまれている。それだけではなく、国は父親にも子育ての協力を求めている。その結果、父親も仕事に集中できない。子供たちは十分な愛情が得られず、両親は仕事にまい進できない状態に陥っているのだ。

0歳から3歳の間に十分な愛情を注がれた子供たちには“能力”が備わる。それはテストでいい点を取るといった短絡的な力ではない。それぞれに固有に備わった魅力的な“力”である。ある子供は創造力に長け、また、ある子供は探究心に富み……。教師にとっては、一律ではない個性豊かな能力に気づき、それを引き出していくのが本来の教育となる。

しかし、今の日本では、そうではない、もう一つ別の教育が幅を利かせている。それは0歳から3歳の間に十分に愛情を注がれていない子供たちに対する“リハビリ教育”である。(注: リハビリ←リハビリテーション, rehabilitation— 〈傷病者の〉機能回復訓練)

P-3

背面有試題

## <科目: 日文>

愛情の不足している子供たちは心が閉ざされていて引き出すべき“能力”が劣る。やる気も協調性もない。だから、周りとうまくやっていくための社会性を高める教育が必要になってくるのだ。

悲しいことだが現在の日本の教育は、このリハビリ教育がメインになりつつある。これは親の責任ではなく、国の責任だ。

東南アジアの国々を見てほしい。フィリピンのアロヨ元大統領、タイのインラック・シナワット首相、インドネシアのメガワティ元大統領など多くの女性リーダーが活躍している。彼女たちは国家リーダーであるだけでなく、母でもある。では、なぜ彼女たちは活躍できるのか。

それらの国には、0歳から3歳までの間、母親に子育てを押し付けず、子供たちに愛情を十分に注ぐことを可能とする制度があるのだ。

それは目新しいものではなく、かつての日本にもあった。戦前、日本では大家族制度の中で、子育てに、じいさん、ばあさんが活躍をしていた。また、資産家たちは貧しい子女をお手伝いとして子育てに雇った。こうした社会の状況により、子供たちは十分に愛情を享受できたのだ。戦後、その制度が完全に壊れてしまっている。

現在、産むことだけでなく育てることをも若い父母に押し付けたことによって、リハビリ教育を必要とする子供たちが増え続けている。有権者である大量の老人を気にするあまり、政治家は若い父母をフォローすることを怠ってしまったのだ。

そこで私は対案したい。選挙制度の改革である。「老人の票は0.5票に。子供を産んだお母さんは2票！お父さんも2票！」

教育を見直すことや、将来の日本を支える子供たちを育てることは国家百年の計である。若い父母から多くの税金を奪い取ろうという考えから脱して、彼らを優遇し次代を築く彼らの子供たちに愛情が注がれるようにしなければならない。

そのため外国人雇用を促進しよう。フィリピンから質のいいベビーシッターを雇うのだ。子供を育てるのは産んだ人ではない。十分な子育てができないという若いお母さんの悩みを解消することで、日本に女性リーダーが活躍する場をつくる。それが、国家繁栄の基になるはずだ。